リウマチ膠原病内科

RHEUMATOLOGY
UNIVERSITY OF YAMANASHI

プログラムの概要

https://rheum.yamanashi.ac.jp/

「スペシャリティもジェネラリティも ～志高く両立を目指して～ 」を目標に掲げ、内科医として習得すべき素養を学べる研修プログラムを立案しています。リウマチ膠原病診療に加え、〇〇内科医である前にまず一人の内科医として内科のどの範囲・分野も最低限の知識や技能を身につけていてもらいたいと考えています。

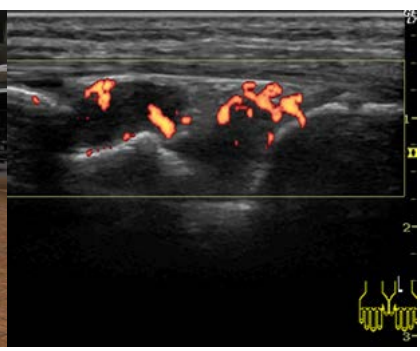
アピールポイント

リウマチ膠原病内科って？

1. 関節リウマチから痛風・偽痛風や変形性関節症まで幅広いリウマチ性疾患に対応する筋骨格内科
2. 膠原病類似症候を呈する感染症や悪性腫瘍、自己炎症疾患などを鑑別する総合診療的側面
3. 多彩な免疫、炎症疾患に対して免疫抑制剤や分子標的薬を駆使して治療を行う免疫内科
4. 合併症として現れる糖尿病や腎機能障害、感染症などにも対応する総合力
5. 発症初期の急性期から妊娠出産を含めた患者さんのライフイベントともに歩む慢性期、若年から高齢者までという幅広さ

スペシャリティもジェネラリティも

リウマチ膠原病分野では医師の専門臓器というものはありません。近年、リウマチ膠原病分野だけでなく、癌領域をはじめ、免疫療法はめざましい進化を遂げています。当科の研修を通じて、免疫疾患や免疫治療に親しみ、全身を診る総合医としての資質を涵養することは、みなさんの医師人生にとって大きなアドバンテージになると考えています。スペシャリストでありながらジェネラリストとしても活躍できる内科医を目指してみませんか？



具体的な研修内容

初期研修では主に入院診療を担当します。内科専攻医（卒後3-5年目）や指導医の指導の下、病歴聴取や身体診察，臨床推論，治療計画の他，採血や静脈路確保などの基本的手技，機会があれば組織生検や胸腔穿刺，腰椎穿刺，中心静脈カテーテル挿入なども経験できます。診断に欠かせない関節超音波検査，皮膚生検や筋生検，小唾液腺生検，神経生検，腎生検なども経験できます。希望に応じ、初診外来にも参加できます。指導医，専攻医，初期研修医でチームを組み、屋根瓦式の指導を実践しています。入院診療では、1ヶ月あたり約5-10名程度の新規入院を経験でき、関節リウマチや全身性エリテマトーデス，血管炎症候群，皮膚筋炎など多岐にわたる疾患を経験できます。

医局員の平均年齢も若く、少人数であることを生かして、ベッドサイドや外来、カンファレンスなどあらゆる場面で気軽にディスカッションでき、適切なフィードバックができるような教育を心がけています。また、初期研修医にも希望があれば初診外来に参加し、初診から診断までを学ぶ機会や入院中に経験した症例を学会で発表する機会などを積極的に設けるようにしております。少人数の医局であるがゆえ、個々のニーズにフレキシブルに対応できるよう努力しています。ぜひ、みなさんの研修をお待ちしております。